

お釈迦様(その2)

お釈迦様の歴史について

お釈迦様は、母・マーヤーを誕生から7日後に亡くしています。しかし、母の妹であるマハー・プラジャパティーが親代わりとなり、釈迦族の王子として何不自由なく育ちます。

16歳の時には、隣国の王女・ヤショーダラ姫と結婚。19歳の時に第一子となる息子・ラーフラが誕生しました。

お釈迦様は妻と息子と共に平穏な生活を送っていました。しかし、心の中では常に悩みを抱えていました。

すべての人が直面する「生きること・老いること・病気になること・死ぬこと」。この四つの苦しみから人々を解放できないかという悩みでした。

人を生きる苦しみから解放する悟りを得たいと考えたお釈迦様は、29歳の時に妻と息子を城に置いて出家します。

出家後はバラモン教の教えに従いながら修行の日々を過ごしたと、伝えられています。



この初日の出を、本堂の廊下で、身体いっばいに浴びて、今年一年がより一層、良い年になる予感に包まれ、今年のスタートを切ることが出来ました。



令和3年元旦 初日の出

張りつめ、冷え切った大気を一瞬にして温かく癒してくれるような、眩い太陽の光。

私の正月は、近年にない素晴らしい初日の出を拝むことが出来ました。本堂で元旦会法要を勤め終え、本堂廊下に出た時、東の山からお日様が顔を覗かせた、正にベストタイミング。思わず、スマホで写真を撮りました。気温はマイナス五度くらいの寒い朝だったと思います。境内には、大晦日から降った雪が薄つすらと積り、冷気を含んだ空気がヒリッと

住職レター

「一年の計は元旦にあり」、物事を成し遂げるためには、最初に計画を立ててから始めるべきであるという戒めがありますが、皆さまは、どのような新年をお迎えになりましたか？

このコロナ禍ゆえ、今年は正月気分では無かった、子供も孫も来なかった、正月は家から出なかった、人と全く会わなかった、正月後に月忌参りした際、このようなお言葉を聞きました。コロナを収束させる一番適切な事は、人と会わない、人と接触しない、とは言え、こうして大切な親族とも距離を取らないといけないのは、寂しいことです。